

JNL : 自動仕訳システム

- SOE 販売管理システム、SVC サービス業販売管理システム、PRJ プロジェクト管理システム、DRS 物流在庫管理システム、ARS 債権管理システム、債権債務管理システムに組み込まれた PNS 手形管理システム、POS システムから GLS 一般会計システムに自動仕訳を行うためのモジュールです。
- 全ての自動仕訳、並びに債務計上取引に関する自動仕訳マスターを保守するシステムでもあります。
- APS 債務管理システムから GLS 一般会計システムへは、本モジュールを利用しなくても、APS モジュール内のメニューである債務計上承認時に債務計上仕訳が、また支払確定時に支払仕訳が自動仕訳として転送されます。但し、その自動仕訳の定義は、本モジュールの自動仕訳マスター保守メニューから設定しなければなりません。

主なメニュー

- 売上取引計上
- 在庫取引計上
- 仕入取引計上
- 三分法自動仕訳
- 入金取引計上
- 入金伝票計上
- 売掛取引計上
- 受取手形自動仕訳
- 支払手形自動仕訳
- プロジェクト取引自動仕訳
- 自動仕訳マスター保守

事前に仕訳イメージを確認できます

- 本モジュールでは、各 SOE、SVC、PUR、PRJ 等のモジュールで生成された売上傳票、仕入伝票、プロジェクト取引等の会計取引を元に、自動仕訳マスターの設定等を参照して、自動仕訳を生成し、一般会計に仕訳を転送します。
- 転送前にどんな仕訳が転送されるか確認したいときは、承認ではなく作成というボタンをクリックすることにより、転送前の仕訳イメージを画面に表示させることができます。

売上取引計上

- SOE 販売管理システム、SVC サービス業販売管理システム、PRJ プロジェクト管理システムで生

成もしくは入力された売上傳票を元に、売上に関する仕訳を生成し、GLS 一般会計に転送します。

- 売上傳票1枚1枚をそれぞれ1仕訳として転送することも出来ますが、通常は、売上傳票は非常に数が多いために、月一度の自動仕訳実行の単位、つまり転送の単位で集計し、一つの仕訳にまとめます。
- 仕訳明細についても、売上傳票であれば、商品情報、数量単価情報がありますが、仕訳明細にはこのような情報はありませんので、自動仕訳マスターに設定された集計の単位によって売上明細を集約します。
- 勘定科目は原則として、マスター管理システムの「売上仕入科目関連マスター」で登録された、売上明細の商品取引区分と商品マスターの商品管理区分の組み合わせで決定します。
- その他、組織、消費税区分は勿論のこと、取引先、従業員、プロジェクト、ユーザ定義コードなど明細区分についても、マスターがシステム間で共有されていますので、会計上必要なレベルで、自動仕訳をきちんと生成することが可能です。



勘定科目	勘定科目名	借方金額	貸方金額	税区分	税率	内税外	組織コード	組織名	消費税金額	消費税込み金額	残高
1150012	売掛金 ARS	25,669,785		課税対象	0	N	9999	共通	YEN	25,669,785	
2104012	前受金 ARS	66,850		課税対象	0	N	9999	共通	YEN	66,850	
4100010	商品売上高		45,000	課税売上	1	E	1010	管理課	2,250	47,250	
4100010	商品売上高		3,033,000	課税売上	1	E	2010	汎用品販売	151,650	3,184,650	
4100010	商品売上高		362,000	課税売上	1	E	2010	汎用品販売	18,100	380,100	
4100010	商品売上高		90,000	課税売上	1	E	2010	汎用品販売	4,500	94,500	
4100010	商品売上高		90,000	課税売上	1	E	2010	汎用品販売	4,500	94,500	
4100010	商品売上高		45,000	課税売上	1	E	2010	汎用品販売	2,250	47,250	
4100010	商品売上高		390,000	課税売上	1	E	2010	汎用品販売	19,500	409,500	
4100010	商品売上高		480,000	課税売上	1	E	2010	汎用品販売	24,000	504,000	
4100010	商品売上高		190,000	課税売上	1	E	2010	汎用品販売	9,500	199,500	
4100010	商品売上高		32,000	課税売上	1	E	2020	製作品販売	1,600	33,600	
4100010	商品売上高		675,000	課税売上	1	E	2030	単品販売課	33,750	708,750	
4100010	商品売上高		82,000	課税売上	1	E	2030	単品販売課	4,100	86,100	
4100010	商品売上高		45,000	課税売上	1	E	3010	卸販売課	2,250	47,250	
4100010	商品売上高		2,431,200	課税売上	1	E	5010	物流管理課	121,560	2,552,760	
4100010	商品売上高		94,000	課税売上	1	E	5010	物流管理課	4,700	98,700	
合計金額: 50,077,913 50,077,913 差額:											

仕入取引計上

- PUR 購買管理システムの会計取引である、仕入伝票、仕入付随費用、加工賃計上傳票を元に、GLS 一般会計システムに自動仕訳を転送します。
- 上記の伝票は、APS 債務管理システムに債務転送し、債務計上承認により個別に自動仕訳することも可能ですが、商社等で三分法仕訳を行っている場合は、月末に一括して自動仕訳する方が、好ましい場合があります。

三分法自動仕訳

- 期首在庫振替仕訳、月末在庫振替仕訳を DRS 物流在庫システムの在庫残高を利用して自動仕訳することが出来ます。
- 部署別に三分法仕訳を行うことが可能ですので、部署毎に倉庫を分けて在庫管理している商社では最適の機能です。
- 他勘定振替や、部署間在庫移動の自動調整仕訳にも対応。

在庫取引計上

- DRS 物流在庫管理システムで自動生成、もしくは、手入力した在庫取引を元に自動仕訳を生成し、一般会計に転送します。
- 売上原価の確定に売上原価対立法を利用している場合は、本機能を利用して、【借方】売上原価 P/L / 【貸方】棚卸資産 B/S という仕訳を自動生成し、一般会計に転送します。
- 売上原価の確定に三分法を利用している場合は、通常、自動仕訳の必要はありませんが、例えば、在庫を自家消費し、他勘定振替を利用したい場合、特定の在庫取引(コード)のみ自動仕訳の対象にするという設定をして対応することが可能です。

入金取引、入金伝票計上

- 入金取引計上は、振込入金 FB データなどを取り込み、一旦仮受金に計上する場合に利用します。
- 入金伝票計上は、入金伝票入力で承認された入金伝票から【借方】現金等 / 【貸方】売掛金という自動仕訳を生成し、一般会計に転送する処理です。入金取引計上によって仮受金を計上した場合は、【借方】仮受金となります。

プロジェクト取引自動仕訳

- プロジェクト管理システムでは、プロジェクトの状況区分(受注前、生産中、検収中、補償期間)により、計上すべき勘定科目が異なります。
- またこうした状況区分は取引の発生時では確定しておらず、月次処理の過程で後から意志決定されて確定することもあります。
- 従って、月末等に状況区分が確定した後に、本モジュールでプロジェクト自動仕訳を実行することにより、プロジェクト取引から各種の仕訳を一般

会計システムに正しい勘定科目で転送することができます。

POS 入金計上

- 【借方】クレジット未収入金・現金等 / 【貸方】POS 仮受金といった仕訳を日々の POS 精算の都度、本部確認後、自動仕訳します。
- 貸方計上された POS 仮受金は、不明商品等の処理が終了した後、本自動仕訳の売上取引計上により、借方計上され一般会計上で消し込まれます。